

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495500165	事業の開始年月日	平成23年5月1日
		指定年月日	平成29年5月1日
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム宮前野川		
所在地	(216-0001)		
	神奈川県川崎市宮前区野川338		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年11月17日	評価結果 市町村受理日	平成30年3月30日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに力を入れております。
外出、行事、地域交流等にも力を入れており、入居者様の気分転換を図っております。また、各階にて、ご入居者様主体で装飾活動を行っており、各居室やフロア等に作品を提示させて頂いております。
ご入居者様が安心、安全に生活できるよう職員一同心がけております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成29年12月7日	評価機関 評価決定日	平成30年3月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、全国各地に280ヶ所以上のグループホームなどを展開する株式会社の運営で、平成23年5月に開設以来、約6年半になります。JR南武線武蔵中原駅からバスで15分ほどの「上野川」バス停で降り、なだらかな坂を上がり、閑静な住宅街を歩いて7分程です。フェンスに植木ポットを飾り、自家菜園もある2階建て2ユニットのグループホームです。

<優れている点>

事務職員、調理職員、介護以外の清掃などを行う職員を配置し、介護職員が入居者一人ひとりの個別ケアに専念出来る体制を整えています。入居者が希望する事を言い出しやすい環境を作っています。ちぎり絵が好きな入居者には、材料を準備しています。園芸、編み物、体操など趣味を楽しみ、回転寿司やファミリーレストランなどへの外食や、大型ショッピングセンターに買い物に出掛けています。また、協力医療機関がかかりつけ医となり、月2回の内科の定期往診の他、他の受診が必要な場合には月1回、精神科や皮膚科、整形などの往診も行っています。

<工夫点>

調理の専門職員がおり、月1回食事レクリエーションを企画しています。餃子、中身を替えたたこ焼き、流しそうめん、パンケーキなどを作り、家族や職員と一緒に楽しんでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	愛の家グループホーム宮前野川
ユニット名	ニコニコユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	町内会にも加入し、地域の交流にも参加し始めている。 また、緊急時の避難先として、ホームを避難先とするよう近隣住民に周知して頂けるよう発信している。	運営理念と運営規程の抜粋を玄関や事務室に掲示しています。理念を毎日の朝礼で唱和をすることで理念の共有を図っています。職員は、入職時のオリエンテーションで運営理念と活動方針をホーム長より説明指導を受けています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民との交流を図るため、散歩や外出時に近隣住民との交流を図っている。 ホームの外壁に花を飾り始めると、近隣の方が声をかけて下さるようになり、花に水をあげてくれたり等、入居者様含め交流作りとなっている。	町内会に加入が認められ地域の一員として活動しています。近隣の人々に災害時避難場所として提供したい旨の申し入れをしています。保育園児とは夏祭りやクリスマスなどで交流しています。中学生の職業体験を受け入れたこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会の集まりの際、認知症のご理解を深めて頂く為、グループホームの説明を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、ご入居者様の情報共有や、サービス内容の確認を行い、ご家族様、地域住民の方々にご理解を頂いている。	運営推進会議は、入居者や入居者家族、地域包括支援センターの職員が出席して2ヶ月に1回開催しています。会議の中で「損保の宿」「仲良しサロン」との交流を図る提案を受け、実施に向けて動いています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に区役所に訪問させて頂き、グループホームの状況をお伝えしている。 天災時の協力体制等含め、相談させて頂いている。	ホーム長は、定期的に区役所を訪問して報告や相談をしています。地域の福祉活動を支えている野川セブンの会合に参加し、様々な情報を入手しています。大学教授と連携し、大学生を交えての行事を計画しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止のに関しては、マニュアルを作成し、職員に周知している。また、会議時の研修で職員の理解を深めている。	身体拘束をしない旨を利用契約書や重要事項説明書・運営規程に明記しています。「高齢者虐待、身体拘束ゼロに向けての取り組み」の事業所内研修を定期的実施しています。玄関などに掲示して職員への周知徹底を図り、実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	弊社内のマニュアルを作成しており、虐待防止に努めている。また、会議時に虐待となる行為等、研修をお行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	弊社内の研修にて、権利擁護に関する理解を深めている。また、成年後見人の方とも交流を持たせて頂き、ご入居者様の権利について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には、担当者、ご家族様にて読み合わせを行いながら実施している。2時間～3時間程、お時間を頂き、不明点をなくすよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関入り口に意見箱を設置し、無記名での意見を募っている。意見に関しては、ご家族様に配布する手紙の中で返答させて頂いている。また、年に1度のご家族様満足度調査を行っている。	法人内で事業所別に入居者家族アンケートを実施し、家族に公表しています。苦情対応マニュアルと苦情時の取り扱いに関する要綱を定め、苦情・相談受付票・意見箱を設置しています。苦情はなく、昨年度より家族の評価が向上しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度行う会議にて職員から意見を求めている。 また、定期的に職員ひとりひとりに面談を実施し意見交換の場を設けている。	ホーム長は、フロア会議やホーム会議、日常の会話や個人面談などから職員の運営に関する希望や意見を聞き対応しています。1階と2階フロアの夜勤者間でお互いに21時・0時・3時に連絡を取り合う提案を受けて実施し、運営に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に行う面談結果から、今後の課題、対策を決め、職員ひとりひとりに合わせている。 また、やりがいを感じられるよう面談時に配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1度の研修を実施、弊社神奈川エリア内での研修も定期的に行い、職員の知識向上に努めている。 また、行政で行う研修にも参加させて頂き、職員に情報共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣のグループホーム、ディサービス等と、2ヶ月に1度交流を持たせて頂き、情報共有を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居者が決まった段階で、ご本人様のご自宅に訪問させて頂き、ご本人様、ご家族様から今までの生活歴、不安点、要望を拝聴し、ケアプランに反映しサービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居が決まった段階で、ご本人様のご自宅に訪問させて頂き、ご本人様、ご家族様から今までの生活歴、不安点、要望を拝聴しケアプランに反映し、サービスに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居者に関するご相談があった際、現在のサービス内容含め、確認させて頂き、グループホームの利用だけではなく、他サービスの利用の可能性も含め、ご提案させて頂いている。必要であれば、区役所への連絡等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を過ごす家族として捉えられるよう、炊事、洗濯、掃除等職員と共にしている。 お声掛けに関しても、「帰ります」等、お伝えしないよう出来る限り配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に情報共有の他、定期的にご家族様にご連絡させて頂き、ご本人様の今の状況を理解して頂いている。 また、今後のケア指針等、ご家族様の見解も伺い、決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居以降、ご家族様了承のもと、ご友人を招いたり、ご連絡させて頂いたり、官益が途切れないよう配慮している。	家族同伴で馴染みの美容院を利用している人もいます。面会記録を作り、月別にファイルをしています。家族や友人、知人の来訪を歓迎し、話しやすくなるような支援をしています。郵便物や電話の取り次ぎもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	各居室装飾や、フロア、廊下等、共有部の装飾をご入居様主体が関われる環境を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後、他サービスをご使用される際には情報の伝達を行い、必要なサービスが受けられるよう配慮している。 また、不安点、疑問点の相談窓口として対応できるようご家族様に周知している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様が行いたいことを尊重できるよう、本人の意向に沿って対応している。 困難な場合には、ご家族様に趣味趣向をお伺いし、それに合わせた支援を行うよう心掛けている。	職員は、入浴時や夜間など1対1になった時に入居者の希望や意向を聴き出すようにしています。個人別の申し送りノートやフロア連絡ノートに書き留め、ちぎり絵・習字・園芸・編み物・体操など入居者のやりたい事を実施するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居者が決まった際の自宅での聞き取りにて、生活歴等を伺っている。 また、可能であれば、ご自宅内のお部屋も拝見させて頂き、生活のご様子等理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントを行い、各入居者様のADLの把握に努めている。 心身状態に関しても、ご本人様が安心できる事、不安なこと等を記録に残し、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリング、サービス担当者会議を行い、介護計画に反映している。 担当者との話し合いに関しても、会議時のカンファ、ご面会時の意見交換を行い、情報の共有に努めている。	職員全員で、ケア日報、アセスメント表、日課計画表、介護計画書、ケアプラン作成状況チェック表、サービス内容実施記録を参考にしています。ユニット会議とホーム会議で情報を共有し、介護に当たっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に介護記録を用意しており、ケアプランのもと、介護を行っている。 日常の介護での反応に関しても記入しており、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様の意向により、その時、その場に合わせたケアを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行政、学校、幼稚園との連携、交流、情報共有を行い、ご本人様が安心して生活できるよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期的往診を行い、ご入居者様の身体状況の把握に努めている。 ご家族様に対しても、往診時の情報共有を行うのはもちろん、可能であれば往診時の同席もお願いし、ご本人様の今の状況を理解して頂いている。	かかりつけ医の内科の往診が月2回あります。複数の協力医療機関がかかりつけ医の為、内科以外の精神科や皮膚科、外科などの医師も必要があれば往診に来ています。医療連携体制加算の事業者で、看護師とは24時間連絡可能となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度の訪問看護を実施している。訪問時は看護師により対応したことを記録に記入し、職員と相談を行う。その後、ご家族様にも情報を共有させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問を行い、グループホームを認知して頂くよう心掛けている。入院時は週に1～2回は面会に訪問する為、ご本人様の状況を拝見させて頂き、早期退院をお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居時に重度化に関する指針としてご説明させて頂き、ご家族様の理解に努めている。その際に、重度化した際のご本人様、ご家族様の考えもお伺いしている。	入居時に「重度化した場合の対応にかかる指針」を説明し、同意書をもらっています。「看取り介護・事業所での看取りとは」のマニュアルを整備し、看取りについての研修を行い、実際に看取り介護状態になった入居者の為に改めて研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	弊社内の緊急時対応マニュアルに沿い、対応している。また、会議時の研修にて緊急時の初期対応を学び、職員の理解に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を行っている。また、近隣消防署（分署）に災害時の協力体制の確保として定期的な訪問をさせて頂き、理解を深めている。その他、近隣住民の方々の協力もお願いし、ご理解頂いている。	消防署職員立ち会いの下、避難訓練を行っています。「防災の手引き」のマニュアルを整備し、水などの備蓄品は、3日分用意しています。天災時には近隣の人々の一時避難所として事業所を利用できるよう運営推進会議に提案しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者様の人格を尊重し、声掛けに努めている。 時には敬語だけではなく、家族のようにお声掛けさせて頂く場合もあり、その際はご本人様、ご家族様にもご理解のもと、行っている。	「個人情報の取扱いに関する規則」のマニュアルを整備し、「プライバシー保護と権利擁護」の研修を行っています。受講者に報告書を提出してもらい、出席できなかった職員に回覧して周知しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様との交流の時間を増やしており、希望、要望に関して対応できる旨を伝えている。 その際には、ご入居者様に決めて頂き、職員は支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様のペースに合わせて、散歩、外出等、希望に沿った支援を心掛けている。 マンツーマンでの対応を心掛け、ご入居者様が満足できるよう時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様に洋服を選んで頂き、身だしなみを整えて頂いている。 また、買い物等にお誘いし、ご本人様がお好きな整容用品を購入し、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ひとりひとりの好みに合わせ、お食事を提供している。 また、お食事の準備や配膳、片づけ等、ご入居者様にも参加して頂き、楽しめる工夫を行っている。その他、音楽を流す等、リラックスできる空間を提供している。	専門業者の管理栄養士が献立を考え、調理専任職員が手作りしています。ミキサー食、刻み食など入居者に合わせています。食事レクリエーションを月1回開催し、餃子、パンケーキ、流しソーメンなど楽しい雰囲気でお食事をしってもらう機会を設けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各食事、水分量を記録に残し、ひとりひとりの状態の把握に努めている。 お食事量が少ない方には、栄養補助飲料や、好きな食べ物等をお出しする等、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行い、清潔に努めている。 拒否が強い方に関しても、訪問歯科医と連携し、口腔ケア方法を学び、少しずつでも清潔に保てるよう工夫、改善している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し、ご本人様の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行うよう心掛けている。 その他、排泄の自立に向け、体操や散歩等、筋力の向上を心掛けている。	排尿、排便を別々に記入した排泄チェック表で排泄の状況を確認しています。一度トイレに座ってもらうことで、紙パンツから布パンツに改善した入居者がいます。排泄に関する声掛けは、他の入居者に聞こえないようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的な研修を行い、便秘が及ぼす影響を職員一同学んでいる。 内服に頼りきりだけではなく、野菜や、運動、乳製品等の摂取を促し、薬に頼らなくても排便が出るよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	最低でも週に2回のご入浴を行い、ご入居されている方の希望に応じて、出来る限り対応している。 入浴時間に関しては、人員の関係により夜間帯に入浴することができない状況である。	基本的に週2回の入浴です。バイタルチェック表、ケア日報、入浴表を使用し、入浴の状況を把握しています。入居者の希望に沿って入浴の順番や時間帯を決めています。ゆず湯、しょうぶ湯にして季節を感じるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中帯の休息や夜間ご自分のリズムに合わせた休息を促し安心してお休みできるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬に関する研修を行い、職員の理解に努めている。 薬の副作用、効能についても薬局の方にご協力頂き、定期的に研修を行っている。 服用後の効果に関しては、往診医と情報共有し、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外出や散歩、工作活動等、ご本人様の行いたいことを実現できるように心掛けている。 ホーム内に関わる事を少しでも減らせるよう外出頻度の向上を目指している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩や外出、買い物等を行っている。 普段は行けない所として、個別行事としてご本人様に行きたいところを伺い対応している。	日常的に散歩や買い物に行っています。いこいの家での展示物の見学に出掛ける人もいます。個別の外出行事としてラーメン店やカフェに出掛けています。季節ごとに初詣、花見、イルミネーション鑑賞などに出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持に関しては金庫内での保管を行っている。 ただし、ご本人様が所持したいと強く希望される場合はご家族様ご理解のもと、所持している。その際は、金銭の把握を毎日行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話がフロアにしかない為、ご入居者様自らが電話することは難しいが、希望時は職員が間に入り、電話ができる環境になっている。 手紙に関しては、ご家族様ご理解のもと、ご自由にかける環境としている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとの装飾を心掛け、居心地の良い空間作りを提供している。 装飾物に関しては、ご入居者様主体で作成し作品として提示している。	清掃などの施設管理を行う専門の職員がいる事で掃除が行き届いています。 クリスマスツリーなど季節の物を飾っています。廊下には、法人内で賞を取ったちぎり絵や行事の写真を飾っています。トイレは、自動的に照明がつくように整備しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有部のテーブルは位置の工夫を行い、思い思いに過ごせるよう心掛けている。 ソファに座られ入居者様同士で交流を図る等、居心地の良い空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様が使われていた、タンスやベット、装飾品を出来る限り持参して頂き、ご自分の部屋として居心地の良い空間を作れるよう工夫している。また、アルバムや絵画等、思い入れのある物に関しても持参頂いている。	居室の備え付けは、エアコン、クローゼット、カーテンがあります。入居者はタンス、テレビ、仏壇など馴染みの物を持ち込んでいます。造花、写真、絵などを飾っています。生活動線を考え、入居者それぞれの自由な空間作りを支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部に関しては、ご入居者様が安心して生活できるよう工夫している。 また、手すりを使い歩行できるよう配慮する等、自立した生活が送れるよう工夫している。		

事業所名	愛の家グループホーム宮前野川
ユニット名	つきみそうユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	町内会にも加入し、地域の交流にも参加し始めている。 また、緊急時の避難先として、ホームを避難先とするよう近隣住民に周知して頂けるよう発信している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域住民との交流を図るため、散歩や外出時に近隣住民との交流を図っている。 ホームの外壁に花を飾り始めると、近隣の方が声をかけて下さるようになり、花に水をあげてくれたり等、入居者様含め交流作りとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	自治会の集まりの際、認知症のご理解を深めて頂く為、グループホームの説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、ご入居者様の情報共有や、サービス内容の確認を行い、ご家族様、地域住民の方々にご理解を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	定期的に区役所に訪問させて頂き、グループホームの状況をお伝えしている。 天災時の協力体制等含め、相談させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止に関しては、マニュアルを作成し、職員に周知している。また、会議時の研修で職員の理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	弊社内のマニュアルを作成しており、虐待防止に努めている。また、会議時に虐待となる行為等、研修をお行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	弊社内の研修にて、権利擁護に関する理解を深めている。また、成年後見人の方とも交流を持たせて頂き、ご入居者様の権利について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には、担当者、ご家族様にて読み合わせを行いながら実施している。2時間～3時間程、お時間を頂き、不明点をなくすよう心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関入り口に意見箱を設置し、無記名での意見を募っている。意見に関しては、ご家族様に配布する手紙の中で返答させて頂いている。また、年に1度のご家族様満足度調査を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1度行う会議にて職員から意見を求めている。 また、定期的に職員ひとりひとりに面談を実施し意見交換の場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	定期的に行う面談結果から、今後の課題、対策を決め、職員ひとりひとりに合わせている。 また、やりがいを感じられるよう面談時に配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1度の研修を実施、弊社神奈川エリア内での研修も定期的に行い、職員の知識向上に努めている。 また、行政で行う研修にも参加させて頂き、職員に情報共有を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣のグループホーム、デイサービス等と、2ヶ月に1度交流を持たせて頂き、情報共有を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご入居者が決まった段階で、ご本人様のご自宅に訪問させて頂き、ご本人様、ご家族様から今までの生活歴、不安点、要望を拝聴し、ケアプランに反映しサービスに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご入居が決まった段階で、ご本人様のご自宅に訪問させて頂き、ご本人様、ご家族様から今までの生活歴、不安点、要望を拝聴しケアプランに反映し、サービスに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご入居者に関するご相談があった際、現在のサービス内容を含め、確認させて頂き、グループホームの利用だけでなく、他サービスの利用の可能性も含め、ご提案させて頂いている。必要であれば、区役所への連絡等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を過ごす家族として捉えられるよう、炊事、洗濯、掃除等職員と共にしている。 お声掛けに関しても、「帰ります」等、お伝えしないよう出来る限り配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に情報共有の他、定期的にご家族様にご連絡させて頂き、ご本人様の今の状況を理解して頂いている。 また、今後のケア指針等、ご家族様の見解も伺い、決めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居以降、ご家族様了承のもと、ご友人を招いたり、ご連絡させて頂いたり、官益が途切れないよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	各居室装飾や、フロア、廊下等、共有部の装飾をご入居様主体が関わられる環境を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後、他サービスをご使用される際には情報の伝達を行い、必要なサービスが受けられるよう配慮している。 また、不安点、疑問点の相談窓口として対応できるようご家族様に周知している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様が行いたいことを尊重できるよう、本人の意向に沿って対応している。 困難な場合には、ご家族様に趣味趣向をお伺いし、それに合わせた支援を行うよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご入居者が決まった際の自宅での聞き取りにて、生活歴等を伺っている。 また、可能であれば、ご自宅内のお部屋も拝見させて頂き、生活のご様子等理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントを行い、各入居者様のADLの把握に努めている。 心身状態に関しても、ご本人様が安心できる事、不安なこと等を記録に残し、ケアに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的にモニタリング、サービス担当者会議を行い、介護計画に反映している。 担当者との話し合いに関しても、会議時のカンファ、ご面会時の意見交換を行い、情報の共有に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々に介護記録を用意しており、ケアプランのもと、介護を行っている。 日常の介護での反応に関しても記入しており、情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様、ご家族様の意向により、その時、その場に合わせたケアを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行政、学校、幼稚園との連携、交流、情報共有を行い、ご本人様が安心して生活できるよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の定期的往診を行い、ご入居者様の身体状況の把握に努めている。 ご家族様に対しても、往診時の情報共有を行うのはもちろん、可能であれば往診時の同席もお願いし、ご本人様の今の状況を理解して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に1度の訪問看護を実施している。訪問時は看護師により対応したことを記録に記入し、職員と相談を行う。その後、ご家族様にも情報を共有させて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問を行い、グループホームを認知して頂くよう心掛けている。入院時は週に1~2回は面会に訪問する為、ご本人様の状況を拝見させて頂き、早期退院をお願いしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居時に重度化に関する指針としてご説明させて頂き、ご家族様の理解に努めている。その際に、重度化した際のご本人様、ご家族様の考えもお伺いしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	弊社内の緊急時対応マニュアルに沿い、対応している。また、会議時の研修にて緊急時の初期対応を学び、職員の理解に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を行っている。また、近隣消防署（分署）に災害時の協力体制の確保として定期的な訪問をさせて頂き、理解を深めている。その他、近隣住民の方々の協力もお願いし、ご理解頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご入居者様の人格を尊重し、声掛けに努めている。 時には敬語だけではなく、家族のようにお声掛けさせて頂く場合もあり、その際はご本人様、ご家族様にもご理解のもと、行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご入居者様との交流の時間を増やしており、希望、要望に関して対応できる旨を伝えている。 その際には、ご入居者様に決めて頂き、職員は支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご入居者様のペースに合わせ、散歩、外出等、希望に沿った支援を心掛けている。 マンツーマンでの対応を心掛け、ご入居者様が満足できるよう時間を調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご本人様に洋服を選んで頂き、身だしなみを整えて頂いている。 また、買い物等にお誘いし、ご本人様がお好きな整容用品を購入し、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ひとりひとりの好みに合わせ、お食事を提供している。 また、お食事の準備や配膳、片づけ等、ご入居者様にも参加して頂き、楽しめる工夫を行っている。その他、音楽を流す等、リラックスできる空間を提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各食事、水分量を記録に残し、ひとりひとりの状態の把握に努めている。 お食事量が少ない方には、栄養補助飲料や、好きな食べ物等をお出しする等、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアを行い、清潔に努めている。 拒否が強い方に関しても、訪問歯科医と連携し、口腔ケア方法を学び、少しずつでも清潔に保てるよう工夫、改善している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し、ご本人様の排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行うよう心掛けている。 その他、排泄の自立に向け、体操や散歩等、筋力の向上を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	定期的な研修を行い、便秘が及ぼす影響を職員一同学んでいる。 内服に頼りきるだけではなく、野菜や、運動、乳製品等の摂取を促し、薬に頼らなくても排便が出るよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	最低でも週に2回のご入浴を行い、ご入居されている方の希望に応じて、出来る限り対応している。 入浴時間に関しては、人員の関係により夜間帯に入浴することができない状況である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中帯の休息や夜間ご自分のリズムに合わせた休息を促し安心してお休みできるように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬に関する研修を行い、職員の理解に努めている。 薬の副作用、効能についても薬局の方にご協力頂き、定期的に研修を行っている。 服用後の効果に関しては、往診医と情報共有し、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	外出や散歩、工作活動等、ご本人様の行いたいことを実現できるように心掛けている。 ホーム内に関わる事を少しでも減らせるよう外出頻度の向上を目指している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的に散歩や外出、買い物等を行っている。 普段は行けない所として、個別行事としてご本人様に行きたいところを伺い対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭の所持に関しては金庫内での保管を行っている。 ただし、ご本人様が所持したいと強く希望される場合はご家族様ご理解のもと、所持している。その際は、金銭の把握を毎日行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話がフロアにしかない為、ご入居者様自らが電話することは難しいが、希望時は職員が間に入り、電話ができる環境になっている。 手紙に関しては、ご家族様ご理解のもと、ご自由にかける環境としている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとの装飾を心掛け、居心地の良い空間作りを提供している。 装飾物に関しては、ご入居者様主体で作成し作品として提示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有部のテーブルは位置の工夫を行い、思い思いに過ごせるよう心掛けている。 ソファに座られ入居者様同士で交流を図る等、居心地の良い空間を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人様が使われていた、タンスやベット、装飾品を出来る限り持参して頂き、ご自分の部屋として居心地の良い空間を作れるよう工夫している。また、アルバムや絵画等、思い出のある物に関しても持参頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部に関しては、ご入居者様が安心して生活できるよう工夫している。 また、手すりを使い歩行できるよう配慮する等、自立した生活が送れるよう工夫している。		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム宮前野川

作成日： 平成30年3月25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者が少ない事に課題あり。	民生委員等、地域の方、ご家族様に参加して頂く。	<ul style="list-style-type: none">・他ホームの推進会議に参加。・推進会議の際、生活センターの方にアドバイスを頂き、実行する。・ご家族様に推進会議について再度説明する。	8ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月